

図画工作科学習指導案

3年2組 32名 指導者 林 智 美

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 形や色から生まれるイメージを、「見える図」で考えることは、自分なりの見方や考え方を広げる手立てとして有効であったか。
- 自分なりの見方や感じ方をもち友達と交流することは、作品のよさや面白さを感じ取り、鑑賞の楽しさを味わうための手立てとして有効であったか。

1 題 材 「見えるんるん」でアート名たんてい

2 目 標 形や色などの感じを基に、自分なりのイメージをもち、作品のいろいろな見方や感じ方を交流しながら、鑑賞の楽しさを味わう。

3 題材の評価規準

- 形や色に興味をもち、作品を見ることを楽しんでいる。 【造形への関心・意欲・態度】
- 形や色などの感じを基に、自分なりの見方や感じ方をもち、イメージを広げようとしている。 【発想や構想の能力】
- 作品の形や色、イメージから、よさや面白さを感じ取ろうとしている。 【鑑賞の能力】

4 題材について

(1) 題材の価値

本題材は、子どもが、様々な形や色の性質を自分なりに感じ取り、思いをめぐらせながら、形の特徴や色の違いから多様なイメージをもち、それらを友達に伝えたり聞いたりする活動を通して、鑑賞のよさや面白さを感じ取ることをねらいとして設定している。

この時期の子どもたちは、生活範囲の広がりに応じて鑑賞の対象が広がる傾向がある。例えば、雲や光などの身近な自然の中にあるものの面白さに気付いたり、それらに自分の好みを重ねてよさを味わったりするような様子が見られる。また、集団での行動意識が高まり、友達と一緒に製作したり鑑賞したりする活動を好み、友達との関わりの中で自分の発想を広げたり深めたりする様子が見られる。そこで、子ども自身の感じ方やものの見方、直感的な判断や考え方を大切に、感じたことや思ったことを友達と交流しながら鑑賞の楽しさを味わうことができるようにする。そのために、言語活動を充実させ、考えたことを言葉にして、いろいろな見方や感じ方で自分なりのイメージをもつことができるようにする。そして、一人一人が自分なりの見方や感じ方をもつ方法を知り、それらを活用して感じたことを交流して、作品のよさや面白さを感じ取るようにしていく。こうした活動を通して、自分なりの見方や感じ方をもちながら鑑賞に親しもうとする態度が育つと考える。また、自分なりのイメージを膨らませ、自分の表したい感じになるように、形や色、組み合わせなどの感じを工夫して表現するなど、豊かな発想や構想する能力が高められると考える。

(2) 子どもの実態と指導

これまでに子どもは、造形活動の中で友達の作品を見合ったり、作品の出来上がり後に、自分や友達の作品を紹介したりしている。また、年に1回、「田上小子ども美術館」で、全校児童の作品を見て鑑賞する学習を行ってきた。鑑賞についてのアンケートでは、「作品を見ること」について好きと答えている子どもは23名、どちらともいえないが9名であった。しかし、「作品を見てよさを紹介すること」については、得意と感じている子どもが12名、苦手と感じている子どもが20名いた。苦手な理由として、「どう発表していいか分からないから。」「紹介するのが難しいから。」「見付けたところが合っているか分からないから」と感じているようである。このことから、いろいろな作品を見ることは好きと感じているが、見て感じたことの言い表し方が分からなかったり、自分の表現に自信がなかったりして、自分なりの見方や感じ方で鑑賞することを楽しめていないことがうかがえる。また、鑑賞のときに意識していることを聞いてみると（複数回答）、「おもしろさ」19名、「細かさ」14名、「色」8名、他に「形」「迫力」「アイデア」「動き」と、自分なりの視点をもって鑑賞しているようだった。それに対し、「分からない」と感じている子どもは7名、「よく見る」のように視点が曖昧な子どもが5名と、12名の子どもが意識せずに見ているようであった。そこで、本題材の学習では、作品を見て、形、色、イメージに着目して、頭に浮かんだことを言葉に表して見える形にすることで、自分の考えを伝えたり友達の考え方を知ったりすることができるようにする。そうすることで、いろいろな見方を、自分なりの見方や感じ方に生かしたり表現したりできるようになると考えた。また、自分なりに感じ取った作品の面白さやよさを交流することの楽しさを味わえるようにしていくようにしていきたい。

5 指導計画（総時数2時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
思いをもつ	<p>1 今までの作品製作で工夫したことを振り返る。</p> <p>2 学習のめあてをとらえる。</p> <p>形や色から感じるイメージを調べて、絵の見方を工夫しよう。</p> <p>【関：形や色から感じるイメージに関心をもとうとしている。】</p> <p>イメージしたことを色や形にすることで、自分の思いを作品に生かすことができたことを思い出せるように言葉掛けをする。</p> 	1
思いをふくらます	<p>3 一枚のカードをみんなで調べ、形や色から感じるイメージについて話し合いアートカードゲームをする。</p> <p>【想：身近なものの形や色などの感じを基に、自分なりの見方や考え方をもつ方法を知る。】</p> <p>色や形などの感じを基に、「見える図」を使って、関係付けたり分類したりして、見る視点や、そこから膨らむイメージや考えを言葉にして可視化して、相手に伝えやすいようにする。</p> 	1
思いをよさに表現する／気付く	<p>4 自分の気に入った作品グループに分かれて、その作品について、見方を工夫したり考えを広げたりするために、「見える図」を活用して話し合う。</p> <p>5 話し合ったことをまとめて、作品について考えた事をみんなに紹介する。</p> <p>【鑑：作品の形や色、イメージなどに関して簡単な言葉にし、よさや面白さを感じ取ろうとしている。】</p> <p>自分や友達の見方や考え方のよさを感じ、お互いのよさを認め合う気持ちを大切にする。</p> 	1 (本時)
新たな思いをもつ	<p>6 友達のいろいろな感じ方や見方の違いに気付くようにし、感じ方は自由であるという思いとイメージを広げることのよさを感じることができるようにする。</p> <p>【鑑：お互いが発見したもののよさや面白さを感じ取ろうとしている。】</p> <p>自分なりの見方や感じ方で作品を楽しむことのよさに伝え、今後の表現への意欲につなげていけるようにする。</p> 	

6 本 時（2／2）

(1) 目標

形や色などの感じを基に、自分なりのイメージをもち、作品のいろいろな見方や感じ方を交流しながら、鑑賞の楽しさを味わう。

(2) 評価規準

- 形や色に興味をもち、自分なりの見方や感じ方で楽しもうとしている。

【造形への関心・意欲・態度】

- 形や色などの感じを基に、自分なりの見方や感じ方をもち、言葉で表そうとしている。

【発想や構想の能力】

- 作品の形や色、イメージなどに関して簡単な言葉にして交流し、お互いが発見したもののよさや面白さを感じ取ろうとしている。

【鑑賞の能力】

(3) 指導に当たって

「思いをもつ」過程では、前時で学習した絵の見方を振り返り、自分の気に入った作品のよさや作者の思いを自分でも見付けようとする意欲をもつことができるようにする。

「思いをふくらます」過程では、形や色から感じるイメージを、「見える図」の中で言葉を使って可視化し、作品を見るとき表現に生かすことができるようにする。

「思いを表現する／自他のよさに気付く」過程では、作品について、見方を工夫したり考えを広げたりして調べるために、「見える図」を準備して、グループで話し合うことができるようにする。そして、いろいろな見方や考え方を知ることができるよう、みんなを紹介する場を設定する。

「新たな思いをもつ」過程では、自分や友達の見方や感じ方のよさを交流できるように紹介する場を設定する。また、形や色に注目するなど、見方を工夫することでいろんなイメージが広がることを確認し、自分なりの見方や感じ方を楽しむことのよさについて伝え、鑑賞に親しもうとする気持ちや、今後の表現へ生かしていこうとする意欲につなげていけるようにする。

過程	時間	主な学習活動と指導の手立て・評価
思いをもつ	7	<p>1 前時で学習した絵の見方を振り返り、絵の中に作者の思いが隠れていることに気付く。</p> <p>・色や形を調べると、作品のイメージが伝わってくるよ。 ・作品を作るときに、自分の思いを表現するためにいろいろ工夫したね。</p> <p>2 本時の学習の流れを知り、学習のめあてを立てる。</p> <p>作品のよさや作者の思いを、アート名たんていになってみんなに伝えよう。</p>
思いをふくらます／思いを表現する／自他のよさに気付く	30	<p>3 アート名たんていになって調べることができるように、形や色から感じるイメージを、「見える図」の中で言葉を使って可視化して、伝え方を確認する。</p> <p>・赤色は燃えるような感じがします。 ・燃えるから元気な感じがします。 ・丸い形から優しい感じがします。</p> <p>4 自分の気に入った作品グループに分かれて、その作品について、見方を工夫したり考えを広げたりするために、必要な「見える図」を選んで話し合う。</p> <p>5 話し合ったことをまとめて、作品について考えた事をそれぞれの作品のアート名たんていになってみんなに紹介する。</p> <p>※ 形や色などの感じを基に自分なりのイメージをもち、気付いたことを話し合うことで、いろいろな見方や感じ方を交流することができる。 (話し合い、「見える図」、ワークシート)</p> <p>○ 積極的に気付いたことを話し合っているグループには、色や形、組合わせに着目した具体的な説明になっているか確認し、発表のときに紹介するように言葉掛けをする。 ○ 活動が停滞しているグループには、形や色を見付けさせて、それぞれどんな感じがするか一緒に考えるようにする。</p>
新たな思いをもつ	8	<p>6 自分たちのグループと比べながら聞いて、気付いたことや感じたことを振り返る。</p> <p>・作品のよさや作者の思いは、色や形からイメージを広げると伝わってくるよ。 ・自分の思いを表現するときにも、イメージに合わせて色や形を工夫するとよいことが分かったよ。 ・作品を見て伝え合うと、いろいろな考えを知ることができて楽しいな。</p> <p>7 鑑賞には多様な見方や考え方があってよいことを知ったり、自分なりにイメージを広げることのよさに気付いたりして今後の造形活動への意欲をもつ。</p> <p>自分や友達の見方や感じ方のよさを交流できるように、振り返りで紹介の場を設定し、お互いのよさを認め合う気持ちを大切にできるようにする。</p> <p>自分なりの見方や感じ方を楽しむことのよさについて伝え、鑑賞に親しもうとする気持ちや、今後の表現へ生かしていこうとする意欲につなげていけるようにする。</p>

図画工作